

日本銀行東海地区金融連続セミナー
金融高度化セミナー(地域セミナー)
「デジタルトランスフォーメーション-RPA」 in 名古屋

RPA(デジタルレイバー)

2018年8月24日
日本銀行金融機構局
金融高度化センター 中山靖司



Bank of Japan



説明の流れ

- I. ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ(第3期)の概要
- II. 第1回ワークショップにおける概要説明と論点
- III. 第1回ワークショップのポイント
(ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ第3期報告書<案>からの抜粋)

ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ(第3期)の開催について

- 2017年10月から2018年6月頃の期間で、以下のテーマで開催。
- 模様を後日HPで公開。

(www.boj.or.jp ホーム > 金融システム > 金融高度化センター > ワークショップ)

	テーマ	内容	開催日
1	デジタルレイバー(RPA)	RPAを使用した事務作業の効率化に向けた動向を紹介	2017年 10/26
2	データを活用した金融の高度化	財務データではなく商流データを活用した企業の信用評価モデルに関し、最新の研究成果等を紹介	12/20
3	クラウドの戦略的活用	クラウドの利用環境が整備されつつあるなかで、クラウド本格導入の動きを取り上げる	2018年 2/8
4	紙をデジタルへ	紙の帳票類をイメージ化してデジタル処理する取組みを、事務共同化、ペーパーレス、顧客サービス向上などの観点から紹介	3/16
5	ワークスタイル変革	場所を選ばずに働ける仕組み等の最新動向に関し市中動向を紹介	4/17
6	API	APIに関する環境整備を受け、市中で実際に動き出したAPI活用の取組状況を紹介	6/13

「ITを活用した金融の高度化に関するWS」(第3期)
第1回「デジタルレイバー(RPA)」(昨年10/26日)

(プログラム)

【開会の挨拶】家田 明(日本銀行)

【論点整理】中山靖司(日本銀行)

【プレゼンテーション】

相原寛史氏(三菱東京UFJ銀行 デジタル企画部 部長)

林 敬恭氏(福岡銀行 事務管理部 部長)

諸岡章弘氏(百五銀行 事務統括部BPR推進室長)

【自由討議】

(自由討議メンバー<プレゼン者を除く>)

安部慶喜

アビームコンサルティング株式会社 執行役員 プ
リンシパル

柿原 慎一郎	みずほフィナンシャルグループ 企画管理部 オペレーショナルエク セレンス推進室 室長
加藤 毅	横浜銀行 総合企画部 担当部長
河村 洋一	日本アイ・ビー・エム 金融インダストリーコンサルティング FinTech 領域ビジネス推進 新規事業開発 マネージャー
島田 直貴	金融ビジネスアンドテクノロジー 代表
下野 崇	アクセンチュア マネージングダイレクター
関谷 俊昭	千葉銀行 経営企画部FinTech事業化推進室 副室長
田中 淳一	KPMGコンサルティング パートナー
津倉 昭彦	浜松信用金庫 理事 イノベーション推進部長
中尾 哲也	RPAテクノロジーズ シニアマネージャー
服部 悟	名古屋銀行 取締役 事務システム部長
福増 伸誠	三菱UFJトラストシステム ITイノベーション推進部 次長
豆塚 滋夫	常陽銀行 営業統括部 主任調査役
村木 淳	りそな銀行 営業サポート統括部 グループリーダー
山本 慶	三井住友銀行 経営企画部 業務改革室 副室長
山本 英生	株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ 金融事業推進部 技術戦略推進 部 技術戦略企画担当部長
吉本 憲文	住信SBIネット銀行株式会社 FinTech事業企画部長

説明の流れ

- I. ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ(第3期)の概要
- II. 第1回ワークショップにおける概要説明と論点**
- III. 第1回ワークショップのポイント
(ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ第3期報告書<案>からの抜粋)

RPA (Robotic Process Automation) とは

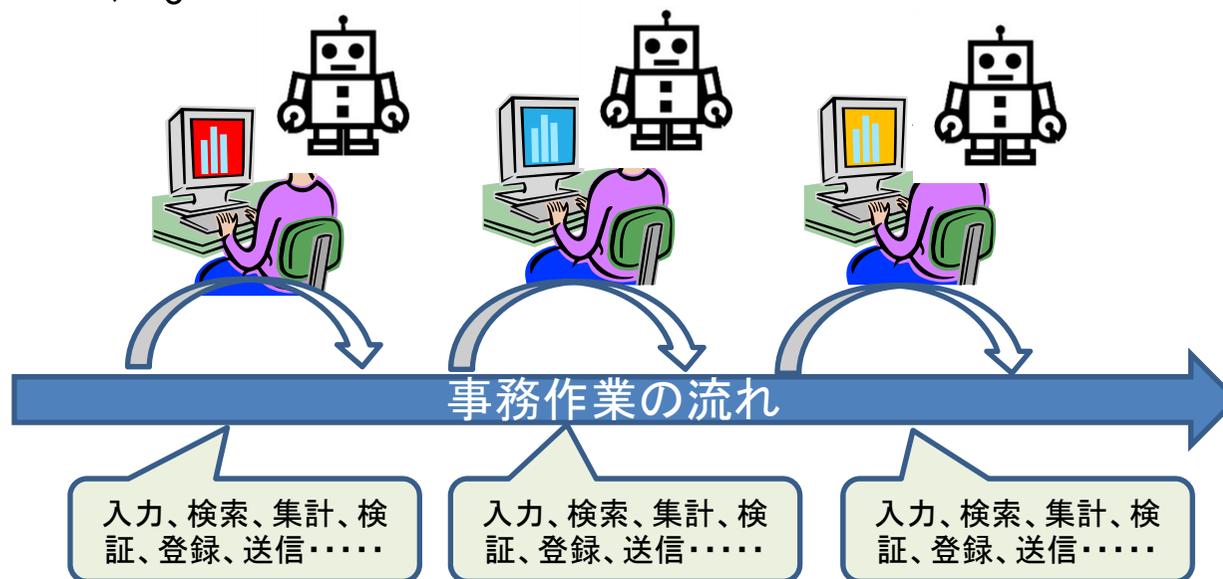
認知技術（ルールエンジン・機械学習・人工知能等）を活用した、主に**ホワイトカラー業務の効率化・自動化の取り組み**である。人間の補完として業務を遂行できることから、**仮想的労働者 (Digital Labor)**とも言われている。(Wikipediaより)

(情報産業サービス白書2017<情報サービス産業協会>より)

ルールエンジン・機械学習・人工知能などの技術を有するソフトウェア型のロボット(仮想労働者・デジタルレイバーとも呼ばれる)が、ホワイトカラーのパソコン操作(アプリケーション操作)を自動化する概念である。(中略) 画像マッチング技術やHTML識別技術を駆使し、人間のようにコンピュータ画面からアプリケーションを認識、事前に設定されたシナリオと呼ばれるルールに従い、データの転記・投入や検索などのパソコン操作を自動的に行う。

RPA (Robotic Process Automation) とは(続き)

人がパソコンで操作する定型的な作業(入力、クリック、コピー、ペースト等の作業)を予め設定しておき自動的に実行。EXCELマクロの高度版のイメージ。



複数のシステムやアプリケーションを繋ぐ業務プロセス／ワークフローの自動化(人間の仕事を補完・代替)であり、従来のシステム開発とは異なる概念。

RPA導入にあたって

① 推進体制はどうあるべきか？

- システム部門、業務企画部門の絡み方、役割分担
- 継続的に進めるための経営視点 KPI・効果測定・評価
- ボトムアップかトップダウンか。意思決定の仕組み

② 対象業務をどう選定し推進していくのか？

- どんな事務から着手すべきか。ニーズの発掘。ユーザーへの理解浸透。
- 選定基準？ 費用対効果がわかりやすい対象業務
- 従業員のストレス軽減の観点も
- 本部やセンターに集約された業務

RPA導入にあたって(続き)

③ 運用ルール、ガバナンスとの関係

- 申請制、ガイドライン、監視
- アプリケーション操作用アカウント(ID)の管理
- 部品再利用、テンプレート
- 野良ロボットをどう考えるか

④ 製品選定

- RPAの位置付けや業務の特性に応じた使い分け

⑤ その他成功させるために必要なこと

説明の流れ

- I. ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ(第3期)の概要
- II. 第1回ワークショップにおける概要説明と論点
- III. **第1回ワークショップのポイント**
(ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ第3期報告書<案>からの抜粋)

- RPAをITWSのテーマとして取り上げたのは昨年10月であるが、その後も含め多くの金融機関では、実証実験を経てRPAを実際に導入する動きが活発である。
- RPAは従来のシステム開発とは異なり、業務部門主導によりスモールスタートで進められる施策であることから、とにかく使ってみるということが重要であるとの指摘が多く見られた。
- もっとも、これを全社的に広げ、効果を最大限にあげるためには、徐々にシステム部門を巻き込んで、適切な連携をとりながら、しっかりとした運用体制・仕組みを整えていくことが重要であり、成功している先行事例では、この点が強調されていた。

ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ第3期報告書<案>からの抜粋(続き)

- また、徐々に明らかになってきたことは、単に業務効率やコストダウンの観点からだけでなく、デジタルレイバーを1つの労働力として捉え、その浮いた時間を人間がより生産性の高い仕事にシフトしていけるような「働き方の変革」として戦略的に考えていく必要があるということであり、先行している事例では、業務部門、システム部門に加え、人事部門を交えて連携している。
- 一方で、RPA適用業務範囲を広げる際にネックとなるのは、金融機関業務においては紙の利用が多いということであり、コンピュータで扱えるようにどのようにして紙をデジタル化していくのかがポイントであるとの指摘が多く見られた。紙のデジタル化は、データ蓄積を進めることにも繋がり、RPAの次の段階であるAIの活用の観点からも重要である。

ご清聴ありがとうございました。

memo